第639号
喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664

発行日　2022年6月16日
発行責任者　喬木村公民館長　市瀬　徹
編集責任者　公民館編集部長　仲田久志
印　　刷　龍共印刷株式会社

椋鳩十ものがたり 76

カガミジシのおもしろさ

椋鳩十記念館・記念図書館長　菅沼利光

「カガミジシ」は、昭和四十四年八月に、〈少年少女現代日本創作文学〉シリーズ七として、講談社より刊行された書下ろしの作品です。昭和三十五・六年頃、鹿児島県志布志の四浦に住む藤山三五郎という老狩人から、イノシシの話を聞いたことが創作の糸口となり、作品化されました。

椋鳩十は、戦前から戦後初期にかけて、愛や命の美しさをたたえる作品、動物の母性に託して母と子の愛情を描く作品、動物を殺さない作品を発表してきました。ところが、昭和三十年代になると、生きることの厳しさをたたえた作品、知恵のかぎり狩人と戦い、命を落とす動物たちが描かれるようになります。椋鳩十は、「カガミジシ」について、「本当の狩人と強いイノシシの死闘をえがいた。」と語っています。

「カガミジシ」の冒頭には、イノシシを獲ったときの山の神への唱えごとや肉の分け方が、丁寧に描かれ、狩りの場面では、猟犬の様子、狩人の配置、頭領の役目などが、具体的に描かれます。この描写によって、カガミジシと源助じいの知恵のかぎりの対決が、読者の脳裏に鮮やかに浮かぶのです。

いつも狩人の裏をかき、用心深く行動するカガミジシですが、子どものイノシシが、空腹に負けて、人道に飛び出すのをみたとき、いつもの用心深さを失って子どもを追いかけます。そのカガミジシに気付いた源助じいは、ダダーンと散弾を打ちかけるのです。

カガミジシは、顔と口の半分をぐちゃぐちゃにしながらも、子どもを連れて洞穴の外に飛び出し、生きるために、死をも覚悟して、力のかぎり人間と戦います。その後、カガミジシは十五日間生き続け、谷川の「銀砂（ぎんさ）」の上で息絶えます。子どもたちを生かし、自分も生きるために命のかぎり戦うカガミジシの姿に、読者は感動するのです。

作者　椋鳩十は、カガミジシの死体を「銀砂」の上に横たえます。これは、カガミジシの高貴な精神を賛美する、作者の意図的な表現ではないでしょうか。

生きるために、自己のもつ知恵のかぎりをつくして戦うカガミジシ、言葉を換えれば、命を燃やして生ききったカガミジシの姿に感動した源助じいは、カガミジシを、天の神への捧げものにし、古い時代から狩人が受け継いできた、山の神への唱えごとを唱えるのです。

生きるために、自分のもつ知恵のかぎりをつくして人間と戦うカガミジシと、カガミジシの生ききった姿を認め、その姿に自分を重ねて思いを巡らす、源助じいの渋い姿と熟練の狩人としての行動こそ、この物語の面白さだと言っていいでしょう。

椋文学・くりん草　ふれ愛散歩サイクル

北部地区公民館運営研究会主催の「椋文学・くりん草　ふれ愛散歩　サイクル」が5月28日（土）に開催されました。

当日は、絶好のお散歩・サイクリング日和。椋鳩十記念館図書館の菅沼館長のガイドで、椋鳩十先生ゆかりの地をめぐりました。散歩・サイクリングコースは下記のとおりです。是非皆さんコースを参考に、お散歩に！サイクリングに！お出かけください！

あの時この時

村内各所で盛んに工事が行われている。中原に建設される統合保育園は、骨格になる鉄骨が組まれ、建物の外観が見えてきた。阿島北の宅地造成も進んでいる。また、道路の拡幅工事や宅地造成、住宅の新築工事もあちこちで行われており、活気が感じられる。

二〇二七年完成予定だったリニア中央新幹線の工事は、静岡県とＪＲとの合意ができず、静岡工区は未着工のままだが、静岡県の川勝知事が、リニア中央新幹線建設促進期成同盟会への加盟を申し入れたと先日報道され、一歩前進したと言えそうだ。

リニアの建設には様々な考えがある。しかし、東京から四時間以上かかる陸の孤島と言われるこの地域にとって、リニアは大きく変革する千載一遇のチャンスであることは間違いない。また、信州大学の新学部、情報学科を誘致しようと長野市としのぎを削っているが、これも近い将来リニアが開通し、首都圏から一時間以内の地域になることが、最大のアピールポイントだと私は思う。

四大の情報系学部があるということは、そこに学ぶ学生がいるということだ。しかも首都圏から一時間以内で地価が安くて豊かな自然がある。ＩＴ系の企業にとって魅力いっぱいの地域になる可能性を秘めている。だから、官民連携して地域の魅力を倍増させ、是非このチャンスを活かしてほしいと願っている。

（館長）

再生紙　シュールコート70Ｋ　を使用しています。

村民の方にも寄稿いただきました！

知って始める【SDGs】「気づけば変えられる」

脱炭素社会推進協議会委員
奥村　茂実

公民館報では「ＳＤＧｓ」の概観が示され、具体的には環境問題、資源の再利用の問題、気候変動や排出ゴミが海の生態系に与える影響など、身近に感じる環境問題が大きく取り上げられてきました。日本でも、全世代の約七十五％の方に「ＳＤＧｓ」は周知されているとのことですから、いろんな場面でこの言葉をお聞きになったと思います。

「ＳＤＧｓ」は二〇一五年九月の国連総会で決められ、二〇三〇年までの達成を目指す国際社会の十七の共通目標です。ところが、私たちは既に、生まれてからずっと「自己」ＳＤＧｓ」を当たり前に備えているのです。「持続可能な開発目標」、言ってみれば「自分がこれからずっと先、生きてゆき、周りの人や社会に迷惑をかけず、応分の社会負担に耐えながらこの村や社会を持続する」このような気づもりで生活しているはずです。

自分でできる、環境負荷の削減、節水、節電、排出ゴミの資源化等はもはや当たり前です。最近、私は三番目の目標「すべての人に健康と福祉を」四番目の目標「質の高い教育をみんなに」を自分ごとに捉え、実行しています。健康寿命を長くするためにも、昼休みには、約二・四kmから三km近いウォーキングをほぼ毎日行っています。昨年秋からの累計では三三〇kmになりました。「衰えは頭と足から来る」と言われていますから、仕事柄、デスクワークの多い自分にとって、習慣的に寸暇を惜しんで歩くようにしています。

「老人特有の認知症はひとごと」と私も思っていましたが、まさに私もその老人ですから、この病気の前兆のような「物忘れ」や「漢字が出てこない」を、最近特に自覚するようになりました。ここでは、四番目の目標「質の高い教育をみんなに」に取り込んで、今までパソコンで書いていた日記も、ノートに万年筆で自書することにしました。わからない字があれば辞書を引くことにして、自らの学習意欲を高めています。

サークル紹介　読み聞かせの会

お問い合わせは、公民館又は各サークルへ

はぁとぽっぽ

代表　賜　美和

「はぁとぽっぽ」は、以前椋図書館と学校図書館司書をされていた木下洋子さんを中心に、本好き・読み聞かせ好きの仲間が集まり、平成十四年から活動を開始。学校の朝読書の時間、先生方が職員朝会をしている間、教室に入ってお話しを届ける活動から始まりました。その後、読書旬間中に各学年のお話会への参加を経て、一年間を通して各クラスに「お話し会」を届ける形で活動を続けてきました。二年前から続くコロナ禍では、放送を利用してお話を届けましたが、やっぱり生の声で目を見て互いの息づかいを感じながらお話を届けたいと、今年度は対面で、二年生から「お話し会」がスタートしました。手遊びや言葉遊びに始まり、語り・絵本・ブックトークといろいろな国のお話を多様な形で子どもたちと楽しんでいます。

はぁとぽっぽ　読み聞かせ

語りを聞く子ども達

会員も、現在は五人と減ってしまいましたが、みんなで集まり、選書をする中で日々の出来事を話しつつ、子ども達の反応を想像しながら楽しんで活動しています。いつでも新入会員募集中！読み聞かせや語りに興味がある方、年齢経験不問。ぜひ一緒にお話の世界を楽しみましょう。

喬木第二小学校読み聞かせの会

代表　塩澤　真由美

喬木第二小学校に読み聞かせの会ができたのは、記憶違いでなければ二〇〇六年ころだったと思います。当時はＰＴＡ会長さんたちも何度か参加していたことがあり、印象に残っています。それから十五年以上続いてきたと思うと感慨深いものがあります。

始めたころのメンバーは保護者が主でしたが、地域の方も加わり、その後子どもが卒業した後も入れ替わりや脱会などありつつ、なんとか今年も活動が始まりました。

このところの活動は、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和二年度は一回、令和三年度は四回でした。なかなかままならない状況ですが、途絶えることはしたくないという思いでいますので、今年度が五月に一回目を行えたことは大変嬉しかったです。

しかし、第二小学校だけではありませんが、多くの子どもたちが、そして大人たちも今までとは違う環境の中にいます。マスクをしながらの読み聞かせ、子どもたちとの距離も少し遠い、伝わるかな、楽しんでもらえるかな、という不安もありますが、素直でまっすぐな子どもたちの瞳を見ながらこれからも活動を続けていきたいと思っています。

第二小　読み聞かせ

喬木俳句会　皐月句会詠草

山笑ふ雑草引く手ふと休め　松島みのり

土の香や母の鉄線咲初むる

古き軒つばさを交わす初燕　原　美恵子

緩やかに真っ赤に燃ゆるポピー園

新緑や不動の山に抱かれて　宮島　高枝

更衣して思い出は普段着に

卒寿春アップデートはままならず　西元　くにこ

満天星の花散り敷きて土となり

大佛の螺髪づくづく蕨畑　村山　たか子

田植終え夫と二人茶の時間

シルバーカー数多集ひて五月晴れ　市橋　ヨリ

青葉山マスク外して深呼吸

五月雨マトリョーシカの涙かな　松葉　孝子

駈け出す子ゆるり行く子も若葉風

幼子のボール遊びや夏きざす　田中　君子

遠き日の母の味恋ふ粽かな

春の月消えぬ間に引く老いの眉　吉川　てる子

九十の端の重き憲法日

＜喬木村俳句会会員募集中＞

俳句が好きな方、興味のある方、俳句会に入りませんか？
初心者の方も大歓迎です。一緒に俳句を学び、詠みましょう！
（お問い合わせは公民館へ）

楽遊塾第１講座「息子」上映会開催

日時：令和４年７月31日（日）
午後１時30分上映開始
場所：福祉センター多目的ホール
※申込・入場料不要です。
※新型コロナ感染対策のため、マスクの着用をお願いします。

【お問い合わせ】
喬木村公民館　0265-33-2002

インスタグラム始めました！

公民館、図書館、資料館、学遊館の４館でインスタグラムを始めました!イベント情報等を発信して行きます。皆さんフォローお願いします!!

ユーザーネーム：たかぎ４カン

スマートフォン、タブレットの方はQRコードで

https://www.instagram.com/takagi4kan/

編集後記

コロナ禍だからと、もっともらしい理由を付けて動かなくなったここ数年。確実に身体が硬くなっている。さすがにこれはダメだろう、と朝起きてからあちこち伸ばしたり、お風呂上りにストレッチをしたりしている。ただ、痛い所も増えてきたため無理もできない。無理ができないからと動かないと更に硬くなる。…悪循環だ。

幸いにも感染症のレベルも下がり、外に出かけるのにも気持ちがいい季節なので（急な暑さは困るが）、できるだけ自分が気持ちいいと思えるように、身体と心を「適度」に動かしていこうと思う。（編集部）